（様式５）

学校アクションプラン

	令和５年度高岡南高校アクションプラン　－１－
重点項目	学習活動と進路支援
重点課題	学力伸長は日々の授業にあることを学校全体で共有し、生徒の実態に即した学習活動となるよう検討する。幅広い学力層に対応した作問・評価方法を工夫し、応用力の育成と基礎事項の定着をはかる。 面接週間以外にも時期を逃さず面接を行い、生徒の主体的な学びと自己実現を支援する。 令和７年度からの新課程入試についての情報収集に努める。
現　状	与えられた課題にはまじめに取り組もうとするが、学習活動自体が目的となっていることに無自覚な生徒が多い。将来を見据えて必要な事柄を選び取れる主体的な姿勢の育成が急務である。 また進路選択に際しては、自己の適性・能力をしっかり認識できず、最終的には合格を第一として進路を考えがちである。
達成目標	（1）個々の学習状況を踏まえた進路意識高揚のための面接指導を、各学年６回以上 （2）アンケート調査による学習活動への満足度８０％以上
方　　策	（1）学期初めの面接週間に加え、生徒個々の現状に応じて随時面接指導にあたり、平日の家庭学習を、１年生２時間、２年生３時間、３年生の６月以降４時間を下限として確保できるよう支援する。 （2）授業の予習・復習がおろそかにならないよう、学年と教科が連携を図り、自学課題の分量とレベルに配慮する。習熟度に応じた個別的な取り組みができるよう配慮する。 （3）主体的な取り組みを促す評価方法を探究する。作問のあり方について、教科内で検討会を持ち、また結果を踏まえて総括を行う。 （4）各学期末にアンケートを行い、達成度を検証する。
達成度	・面接指導は、学期当初の面接週間と学期末を中心に丁寧に行われており、生徒アンケートの結果にも、ほとんどの生徒が満足していることがうかがわれる。 ・学習活動への満足度は高く、目標は達成できている。
具体的取り組み状況	・面接指導については、学校年間行事計画に明記され、定着しているものと思っている。 ・作問のあり方の検討については、今年度も取り組めたとはいえず、生徒の学習の方向性に大きな影響を与えるものであり、今後の課題として掲げ続けたい。 ・学期末アンケートをWeb上で実施しているが、保護者の回答率がなかなか向上しないので、押しつけになることがないよう留意しながら工夫していきたい。今年度は学年末もwebを用いて保護者アンケートを実施したい。
評　価	A　主体的な取り組みを促す作問のあり方の検討が、幅広い取り組みとならなかったことは反省される。来年度の新課程入試情報はしっかりとできた。 進学に対する生徒の意識は確実に変化しており、柔軟に対応できる態勢づくりを心がけたい。
学校関係者の意見	・目標を達成するなかで、今後の課題についてもしっかり認知されている。 ・今後の課題として、作問のあり方検討について、未だ道半ばであると揚げられている。主体的な取組を促す視点からも、是非ともその方向で取り組まれることを願います。
次年度へ向けての課　題	生徒の実態の把握に努め、生徒の学習活動がより効果のあるものになるよう検討と工夫を重ねていきたい。具体的には、校内及び外部模試を精選することで一層の学習事項の定着を図り、本校が期待されている進学実績につなげられるようにしていきたい。

（　）評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった

	令和５年度高岡南高校アクションプラン　－２－	
重点項目	学校生活	
重点課題	（1）　自己教育力を高め、主体性と自立性に富む品格ある集団の育成 （2）　生活のリズムを整える食習慣の定着	
現　状	（1）　挨拶の励行。時間厳守、身だしなみの価値を心から意識して実践している生徒はまだ少ない。 （2）　感染症予防への継続的な理解がまだ必要であり、食習慣だけでなく、食事内容や生活習慣に改善すべきところがある。	
達成目標	（1）①社会的なルール・マナーの意識向上　85% ②生徒意識調査による挨拶・時間・身だしなみに関わる意識率 90% （2）①朝食を毎日とる習慣が身についている。　90% ②感染症予防を心掛けて昼食をとっている。　90%	
方　策	（1）・生徒校紀委員を中心に各クラス、学年の「行動指針」策定し実践する。 ・「社会的なルール・マナー」についてのアンケートを実施し理解度を高める。 （2）・引き続き朝食を始めとした生活習慣の実態を把握し、朝食の重要性を理解するとともに、「うつらない」「うつさない」感染予防を意識した食事や生活習慣を考えさせる。	
達成度	（1）①社会的なルール・マナーの意識向上　90% ②生徒意識調査による挨拶・時間・身だしなみに関わる意識率 90% （2）①１年生においては、89%が朝食を毎日とっていると回答していたのが、12 月調査では 93%になっていた。学校全体では95%であった。 ②感染予防対策を「いつも意識して」、「だいたい意識して」昼食をとっていると答えた生徒を合わせると、78%であった。昨年 90%目標は達成していたが、感染症の位置づけが変わったことによる意識の変化を考慮すると、流行期にあわせた指導を重視してくことが適切のようだ。	
これまでの具体的な取り組み状況	（1）・新入生オリエンテーションで「マナーセンスアップ教室」を実施 ・生徒校紀委員を中心に各クラスの「行動指針」策定。 (マナーついての意義・社会人としてのあり方について学ぶ) ・「スマートフォン等の利用等に関する調査」についてのアンケートを実施し共通理解度を高める。 ・ルールメーキング委員会設置。（試行期間を設定し校内でのスマホの利活用について検証） ・4 月、9 月に「マナーセンスアップ週間」実施。（PTA 役員、生徒会執行部、教職員） （2）・新入生オリエンテーション時に朝食をとる必要性を啓蒙した。 11 月の保健統一ホームルームでは管理栄養士を講師実施した朝食アンケートの評価と食事と栄養についての講座を開いた。 ・新型コロナの感染症位置づけが変わったが、流行状況などを踏まえ、保健だよりなどで生徒自身が、食事の際や学校生活の中で感染症予防をするように注意を喚起する。	
評価	A	生徒が自ら考え実践していく過程で、他を思いやる心や自立心を育むことに結びついた。

学校関係の意見	・生徒風紀委員を中心に各クラス・学年の「行動指針」を定めた上で、自らが考え実践する過程で他を思いやる心を育てたことは素晴らしい。 ・「さわやか運動」等、年間を通して多彩な活動が取り組まれている。食習慣を基本とした生活リズムを保ちながら、高岡南生らしい品格の概念の共有と陶冶の実践に努めて頂き、地域住民のから評価されるような姿になれば素晴らしい。
次年度に向けての課題	（1）　南高校生らしい品格の概念の共有。生徒相互間のふれあいを求め、共生の心や人として望ましい品格の陶冶に努める。 （2）　朝食を始めとした毎日の食生活を大切にし、また感染症予防への意識を高め、流行期などには適切な対応ができるように、生徒自身が判断して健康に留意した学校生活が送れるように心掛ける。

(　)評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった

	令和５年度高岡南高校アクションプラン　－３－
重点項目	学校の活性化
重点課題	（1）行事・部活動を通じて自ら創意工夫に努め、主体的に行動できる生徒の育成 （2）読書活動の推進 （3）ホームルーム活動などを通じてのボランティア活動の推進
現　状	（1）学校生活を意義あるものにするために、生徒一人ひとりのアイデアと主体的な姿勢が一層求められている。 （2）図書の貸出し数は増えている。（一人あたり R2 2.4 冊、R3 2.6 冊、R4 3.8 冊） （3）奉仕の精神に富む生徒が多く、ボランティア活動には意欲的である。
達成目標	（1）生徒が考え、生徒が動く学校生活にするために、一人でも多くの生徒が工夫を凝らし、達成感と自らの成長を実感できることを目指す。 （2）図書の総貸出数が年間１７００冊以上になることを目指す。 （一人あたり約 3.6 冊） （3）生徒一人ひとりがボランティア活動に年間一回以上参加する。
方　策	（1）生徒一人ひとりに対し、高校生活が創造力と主体性を発揮する絶好の機会であると捉えさせる。そのために、様々な場面で声かけと側面からサポートを心掛ける。 （2）①学年と連携し、朝読書の時間を充実させる。（図書館から朝読書用の書籍を継続して選んでもらう。） ②授業や探究的活動で書籍を活用する。 ③ＰＯＰカードや新着図書案内、校内掲示板など、広報に力を入れる。 （3）ホーム・ルーム活動等を利用し、各学年・クラス単位で校舎内外・戸出地区における清掃作業等のボランティア活動の企画・実施を推奨する。
達成度	（1）生徒が主体となって計画し、合唱コンクール、体育大会、南高祭を実施した。また、各学年の球技大会も、生徒が計画立案した。立案までは試行錯誤しながら、学校行事を目指して準備を進めた。（事後、達成感を得た生徒　合唱コンクール 98%　体育大会 98.7%　南高祭 99%） （2）２月２日現在で総貸出数は２，１７０冊（１人あたり　４．６冊） （3）７クラスがホームルームの時間に戸出地域のボランティア活動を実施した。また、ボランティア委員も地域の方々と一緒に清掃ボランティア活動を行い、合計約 340 名の生徒が参加した。地域行事・地域施設にも多くの生徒が参加した。
これまでの具体的な取り組み状況	（1）生徒が主体的に学校行事を計画できるように、教員も一緒になって協力して進め、他者とのコミュニケーションの中で主体性を育んでいけるよう指導にあたった。 （2）・ブックフェアの実施（貸出冊数増やす　貸出期間延長） ・掲示板・展示スペースによる広報活動 （職員室横廊下　生徒玄関　校長室前） ・朝読書　１、２年実施 （3）ホームルーム計画の立案の段階で、ボランティア活動の実施を推奨し、計画に取り入れたり、各部に地域団体からの依頼を紹介したりした。
評価	A　学校行事全般において、生徒一人ひとりが主体的に行動しようとする姿勢が見られた。
学校関係者の意見	・生徒がアイデアを出し合い、主体的に合唱コンクール・体育大会・南高祭等の開催・運営に取り組まれ、事後の達成感も高率を示したことは、将来、学校生活でのよい思い出となるであろう。 ・学校行事の取組みが広報紙（生徒会及び PTA）で各自治会に半回覧で情報提供され、地域住民の

	多くが親近感を抱いています。
次年度への向けての課題	（1）主体的に行事の企画・運営に取り組む姿勢を執行部だけでなく、全生徒が執行部とともに行事の企画に参加する方法を考えていく必要がある。 （2）図書に触れる機会がさらに増えるよう、工夫をしていきたい。

（　）評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった

	令和５年度高岡南高校アクションプラン　－４－
重点項目	ＳＯＵＴＨ探究プロジェクト
重点課題	「ＳＯＵＴＨ探究プロジェクト」の充実発展を目指す。スクールポリシー「ＳＯＵＴＨ」を実現するために、地域企業・自治体・大学・ＰＴＡ等と連携し探究活動を行い、情報発信力や課題解決能力を育成することを目指す。また、探究的な活動を通して、将来の社会とのかかわり方の視野を広げ、生徒のキャリア教育に資する。
現　状	「ＳＯＵＴＨ探究プロジェクト」では、探究的な活動を行い、１学年では企業・行政と連携し地域課題をテーマに探究の手法を学ばせている。２学年での大学連携により探究力・自己発信力の伸長が期待されている。学びに向かう姿勢や高みを目指して挑戦する姿勢を高めるためにも、このプロジェクトを系統的に再編し、伸ばしたい力を計画的に育成する必要がある。
達成目標	「ＳＯＵＴＨ探究プロジェクト」を通じて、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合　８０％
方　　策	「総合的な探究の時間」「理数探究」「ＨＲ」を活用して実施する。 ①　１学年 課題の設定や情報活用能力など探究リテラシーを身につけせる。 ・イノベータープログラム（アントレプレナーシップ講座・グローバル講座）を実施しデザイン思考を学び、マインドセットを行う。 ・企業訪問「フィールド・スタディ」「インターンシップ」を実施する。 課題発見・課題解決方法について地域企業をテーマにして学ぶ。 ・地域探究・・・高岡市と連携し、身近な地域を課題にして探究する。新結合の考え方将来の社会とのかかわり方の視野を広げる。 ②　２学年 ・イノベータープログラム・・・アントレプレナーシップ講座とグローバル講座を実施しデザイン思考を学び、マインドセットを行う。 ・大学連携講座Ⅱ（探究的な活動Ⅱ）・・・富山大学と連携し、将来進む可能性のある学問分野に関係した研究活動等を体験する。仲間と協働しながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、探究 ・自己発信力を身につけさせる。理系に於いては更に数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせる。 ③　プロジェクトの評価と改善を行い、更に系統的に再編する取り組みを行い、伸ばしたい力について学校全体で共有をはかる。
達成度	「ＳＯＵＴＨ探究プロジェクト」を通じて、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合　１学年　９３．６％　２学年　９２．７％

これまでの具体的な取り組み状況	・イノベータープログラムを入学当初（４～７月）に実施することに変更し、マインドセットを行い、デザイン思考を身につけると共に、学びに向かう力や挑戦心を高めことができた。 ・企業訪問・・・２６事業所を訪問し、地域企業への理解を深めた。課題発見・課題解決方法について地域企業をテーマにして学んだ。 ・地域探究・・・高岡市と連携し、身近な地域を課題にして探究した。新結合の考え方や将来の社会とのかかわり方の視野を広げた。新たな取り組みとして、若手起業家が講演し探究マインドを涵養したり（地域探究講演会）、探究活動に対し自治体・企業・経済団体・ＰＴＡなどから学習支援を受けたり（地域探究連携講座）、探究力の育成のための探究リテラシー講座を実施したりし、生徒は自分事と捉え内容を深めた。３月１９日にお世話になった方を招いて地域探究発表会を実施した。 ② ２学年 ・イノベータープログラム・・・アントレプレナーシップ講座とグローバル講座を実施しデザイン思考を学び、マインドセットを行った。 ・大学連携講座Ⅱ（探究的な活動Ⅱ）・・・富山大学と連携し、５月に大学訪問、８月・１１月・２月に大学より講師を招聘して報告会を実施した。３月１９日にはポスターセッションによる、全体発表会を実施した。特に理系に於いては、「理数探究」として実施し、数学的・理科的な見方を通して、探究力・自己発信力を高めることができた。 ③ 各種調査を実施し、プロジェクトの評価を実施していて、伸ばしたい力について学校全体で共有をはかっている。 ④ 希望者研修として大学実習を実施。大阪大学外国語学部・富山大学薬学部に生徒を派遣し実習を実施した。海外研修代替研修として国際理解研修（国内）として実施し、東京グローバルゲートウェイおよび留学生による　スカベンチャーハントなどの研修を実施した。	
評価	A	イノベーター講座・地域探究講演会で生徒の挑戦するマインドの醸成、また地域探究連家講座で地域との連携を深化し、生徒の探究力（情報発信力や課題解決能力）を高めるとともに、地域・世界で活躍する人材の育成に寄与した。
学校関係者の意見	１、２学年とも段階に応じたテーマを定め、企業・地域自治体・大学・PTA等と連携し、スクールポリシー「SOUTH」の実現に取り組まれていることに、また更に現状を踏まえ、系統的に再編し、生徒に伸ばしたい力を計画的に育成することの課題に取り組まれていることに対し、ますますの充実と効果を期待します。	
次年度に向けての課題	「ＳＯＵＴＨ探究プロジェクト」の推進について、「越境」をキーワードに地域と連携する土壌が育成された。更に１学年地域探究については、「探究学習リテラシー」を深く狭く掘り進める必要がある。３学年については、「データサイエンス講座」を開設する。データを分析・収集し新しい価値を創造するプログラムを準備中である。	

(　)評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった

	令和５年度高岡南高校アクションプラン　－５－
重点項目	人文科学コースの活動推進
重点課題	（1）　授業内容を学校全体で共有し、教科間や外部の教育機関との連携をとりながら、効果のある学習活動となるよう内容を充実していく。 （2）　体験学習を中心に専門的で特色のある学習や活動を取り入れ、国内だけでなく世界において、リーダーとして活躍できる総合的な能力を身に付けさせる。
現　状	（1）　授業と校外校内学習を連動して深め、生徒の能力を伸長できるよう日程や内容を計画・工夫している。 （2）　授業「文化と情報」担当者が内容を計画し実施しているが、その内容が校内ではあまり周知されていない。
達成目標	・人文科学コースの授業「文化と情報」で表現することの関心・意欲とコミュニケーション力が高まった、と感じる生徒の割合が 80%以上。 ・校内での授業やセミナーの参観者　のべ 30 人以上。
方　　策	（1）授業「文化と情報」（2 学年　来年度から 3 学年にも導入） ＜2 学年＞ ・校外学習や校内学習での学びを参考に、自身の研究テーマを設定し、日本語や英語で表現する。また、その成果の発表を効果的に行うために、様々な技法や ICT 機器を利用する。 ＜3 学年＞ ・これまでの学びを総合的に駆使し、自身の課題を発見し、データ分析をしながら解決策を導き出す。それをまとめて最終的には英語でプレゼンテーションする。また、その成果の発表を効果的に行うために、様々な技法や ICT 機器を利用する。 （2）校外校内学習「セミナー」（1，２学年） ①サマーセミナー、スプリングセミナー ・教育機関や博物館などの施設で専門的な体験学習を行い、人文科学系の世界に触れ、興味のある分野の知識を深める。 ・人文・社会・国際系で活躍している人の経験談や専門的な話を聴き、ワークショップを通して、国際・社会についての視野を広める。 ・探究活動やプレゼンテーションについて学ぶ。 ②ウインターセミナー ・外国人留学生との意見交換や交流を通して情報発信力、プレゼンテーション能力を高める。また、規律ある態度、責任感、連帯感を培う。
達成度	・人文科学コースの授業「文化と情報」で表現することの関心・意欲とコミュニケーション力が高まった、と感じる生徒の割合　前期 100% ・校内での授業やセミナーの参観者　のべ 39 名（1 月現在）
これまでの具体的な取り組み状況	・授業「文化と情報」では前期は短歌バトルやビブリオバトル、ディスカッションを行った。後期は台湾高校生と互いの国の文化比較を行いプレゼンを行う予定。 ・３年生は５月にはシンガポール高校生と「日本の社会問題」について、お互いに相手国の言語でデータ分析中心の発表と交流を行い、視点の違いやプレゼン技術を学んだ。なお本校出身の大学生が７名サポートしてくれた。６月に台湾高校生が来校し交流した。２月からは大学生は引き続き２年生をサポートし、来年度の５月の発表に向けて内容を深めている。

	・7 月に１・２年生でサマーセミナーを行い、美術館や図書館など公共施設での学びを深めた。12 月のウィンターセミナーでは２年生が３日間の外国留学生とのディスカッションを英語のみで行い。３月にはスプリングセミナーで国際交流員２名や立山博物館学芸員に講演していただく。 ・１年人文予定者がそろった最初の活動として、3 年ぶりに復活した三校合同課題研究発表会を見学し、他校の探究活動見学からプレゼンテーションを学んだ。	
評価	A	生徒のアンケート回答や担当者からの評価は高評価であり、生徒自身も自分の成長を感じることができる活動内容となった。
学校関係者の意見	・興味をもって、理解しやすい課題設定がされていると思われ、社会人として備えるべきスキルに繋がるように努めてもらいたい。 ・年間を通した外部関係者を交えたセミナー等で教員側にも一層生徒の成長が実感できるような取り組みとなるよう期待します。	
次年度へ向けての課題	１年のうちから人文コース予定者の活動を充実させることで、２年生からのコースの活動内容を高度にすることができると考えられる。また、次年度から３年生にも加わる「文化と情報」の授業で、データ分析を加えた考察や発表ができる、より説得力のある人材の育成を目指したい。	

（　）評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった